

2023年度  
在学生調査実施報告



慶應義塾大学

教学マネジメント推進センター

# 調査概要

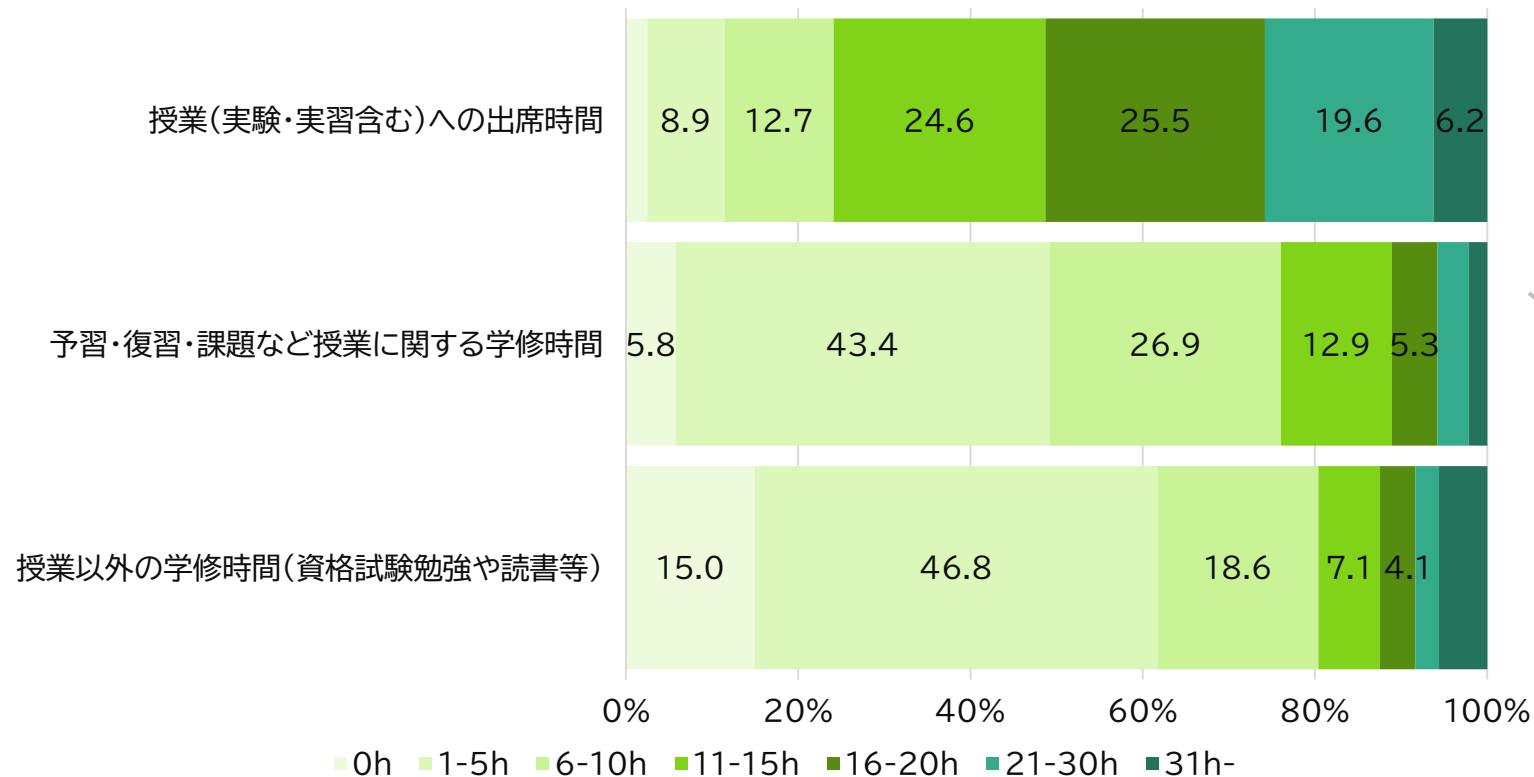
## KEIO UNIVERSITY STUDENT SURVEY

2022年4月より設置された教学マネジメント推進センターでは、教育効果や学生の学修成果を測定するための学生調査導入に向けて、2023年度に在学生を対象としたアンケートを実施しました。調査概要は以下のとおりです。

|             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| <u>対象者</u>  | 2024年3月時点で在籍している学部生(3月に卒業した学部生を除く) |
| <u>実施期間</u> | 2024年3月8日～4月7日                     |
| <u>実施方法</u> | 学修支援システム(K-LMS)によるアンケート機能を利用       |
| <u>回答数</u>  | 2696件/22548件（回答率:約12.0%）           |
| <u>調査主体</u> | 教学マネジメント推進センター／教学マネジメント推進室         |

## 1 1週間の生活時間(授業期間中)

Q 授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間についてあてはまるものを選択してください



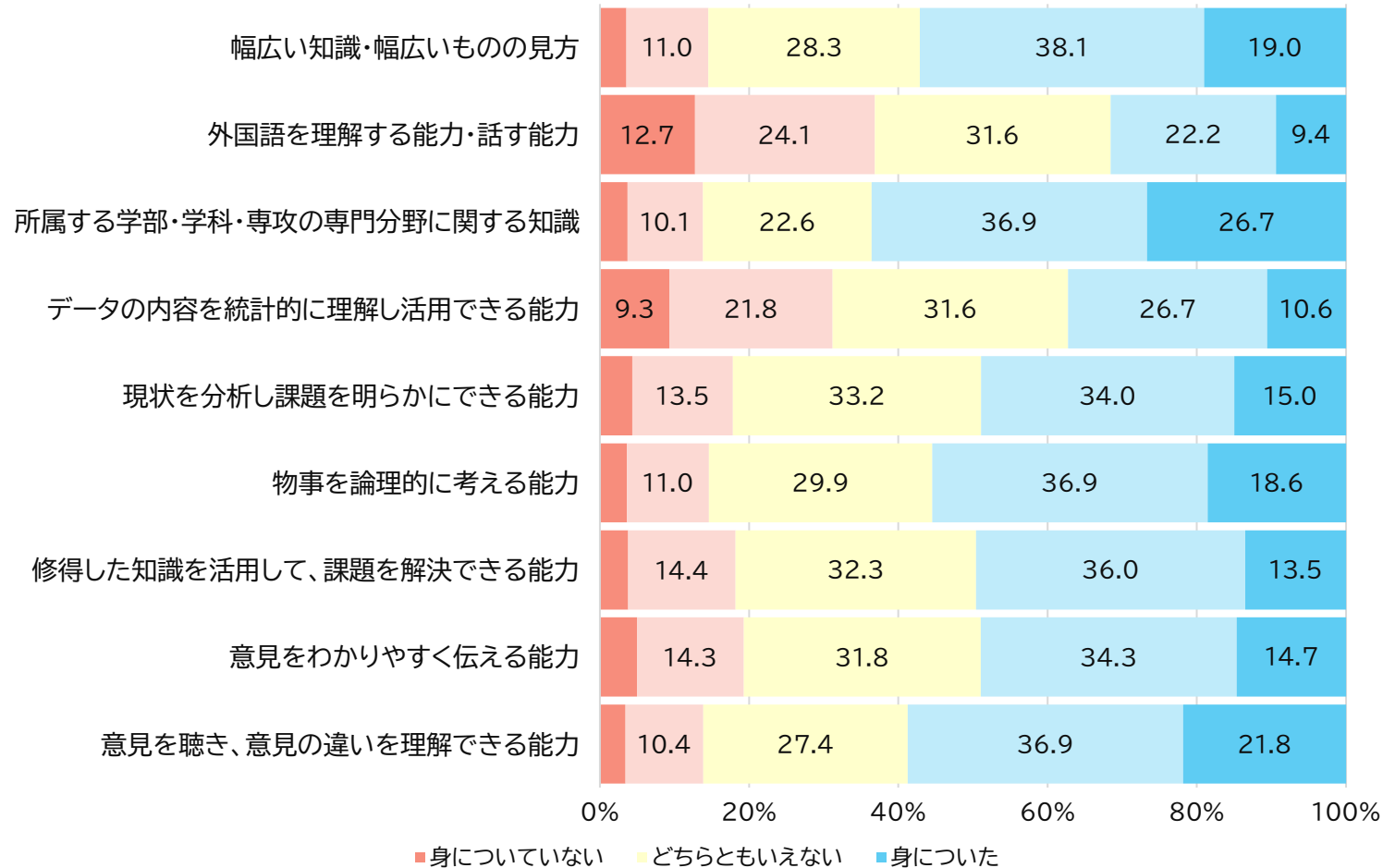
・在学生の過半数は16時間以上授業に出席している

・半数の在学生は授業に関する学修時間が5時間以下である

・半数の在学生が授業以外の学修時間も5時間以下である

## 2 学修成果

Q これまでの大学生活において、以下の能力やスキルについて、大学入学時から比べてどの程度向上した、あるいは身についたと考えますか



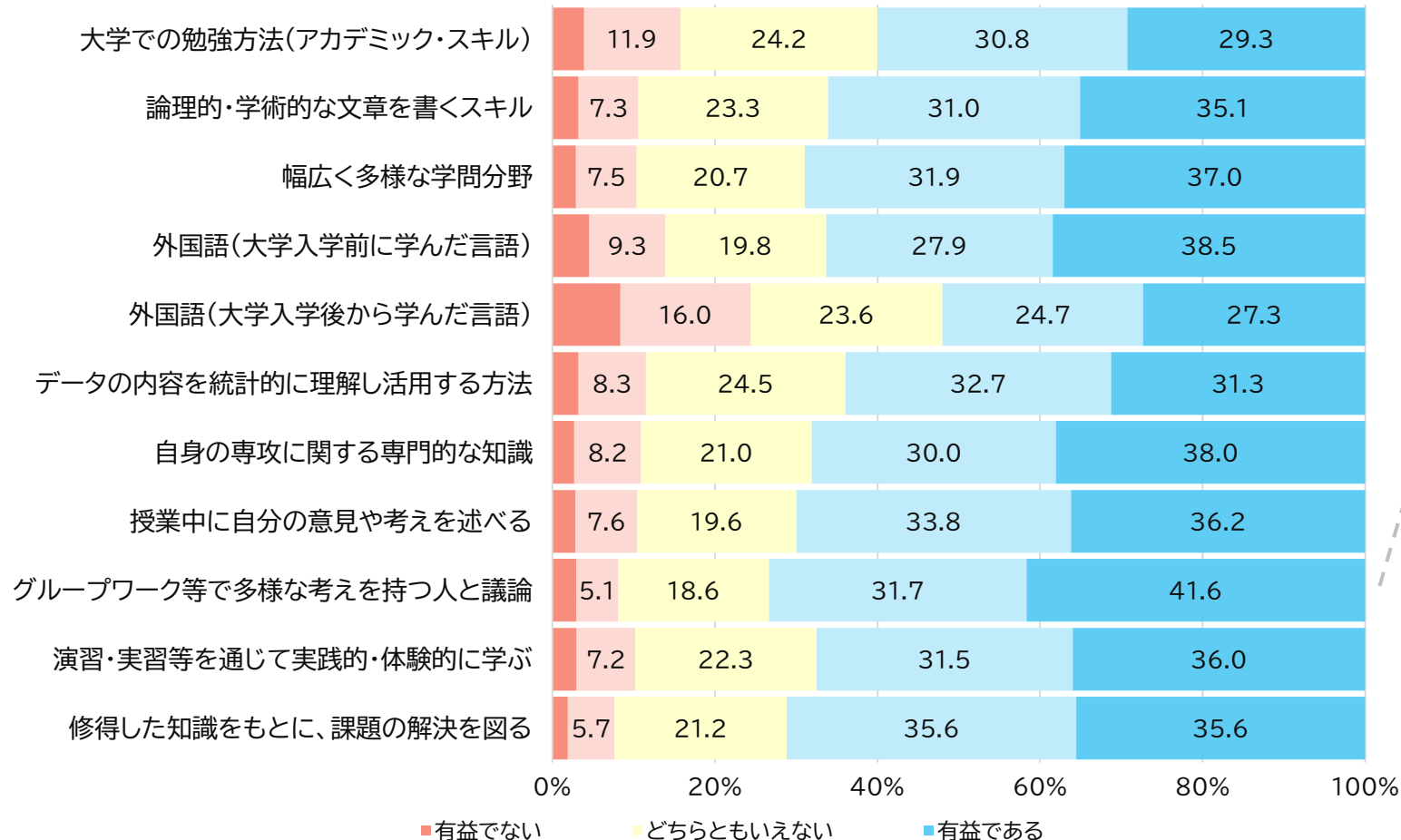
・6割以上の学生が入学時から比べて専門分野に関する知識が身についたと考えている

・同程度の割合で「意見を聴き、意見の違いを理解できる能力」が身についたと考える学生が多い

※学修機会がない場合はカウントから除いて処理

### 3 学びの有益性

Q これまでの大学生活における以下の学びの経験は、これからの学修や就職等に有益であると考えますか



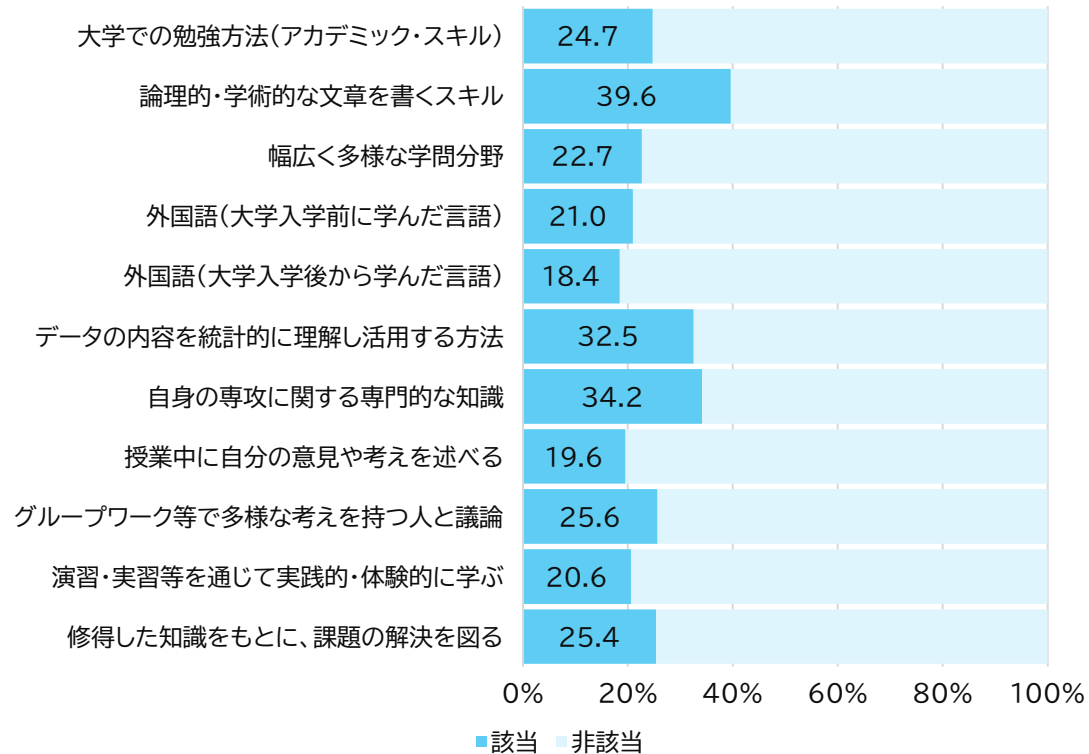
・グループワーク等を通じて多様な考えを持つ人との議論に将来への有益性を感じている学生が多い

・修得した知識をもとに課題解決を図る経験にも有益性を感じている

※学修機会がない場合はカウントから除いて処理

## 4 学習機会(ゼミや卒業課題)

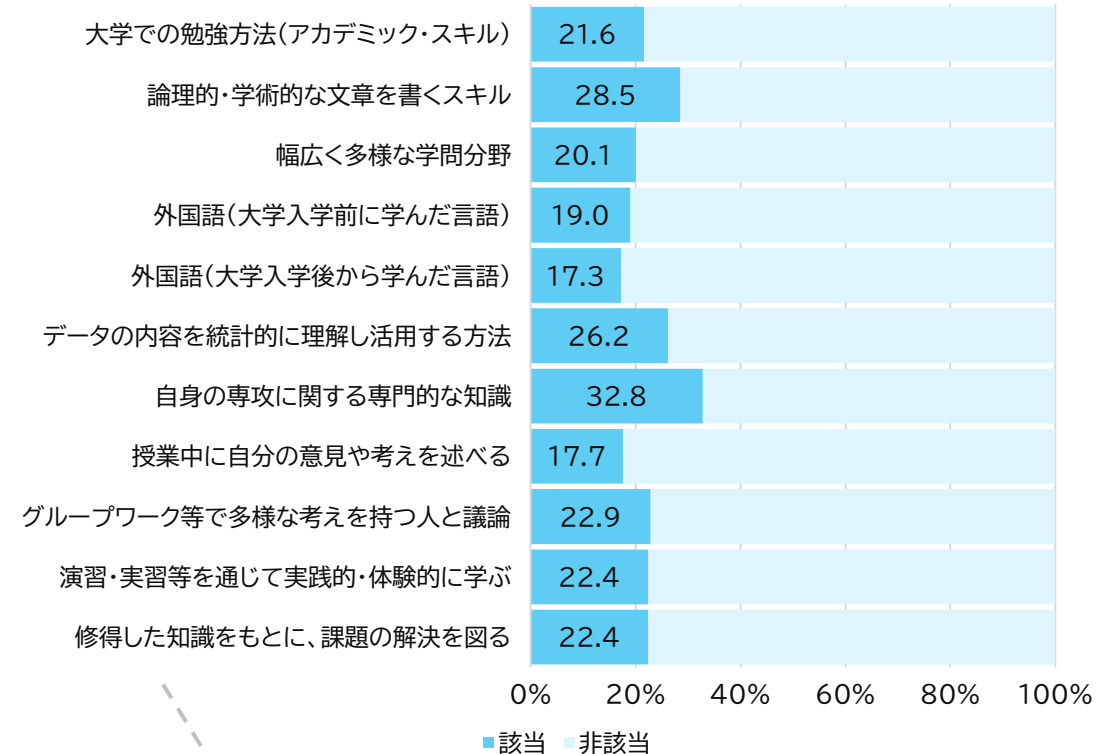
Q ゼミや卒業課題(卒業研究・論文など)に取り組むなかで、より経験を積みたかったと感じるものを選択してください



※ゼミや卒業課題の履修を課されない学部は、卒業するまでにより経験を積みたかったと感じるものを選択

## 5 学修機会(専門科目の学修)

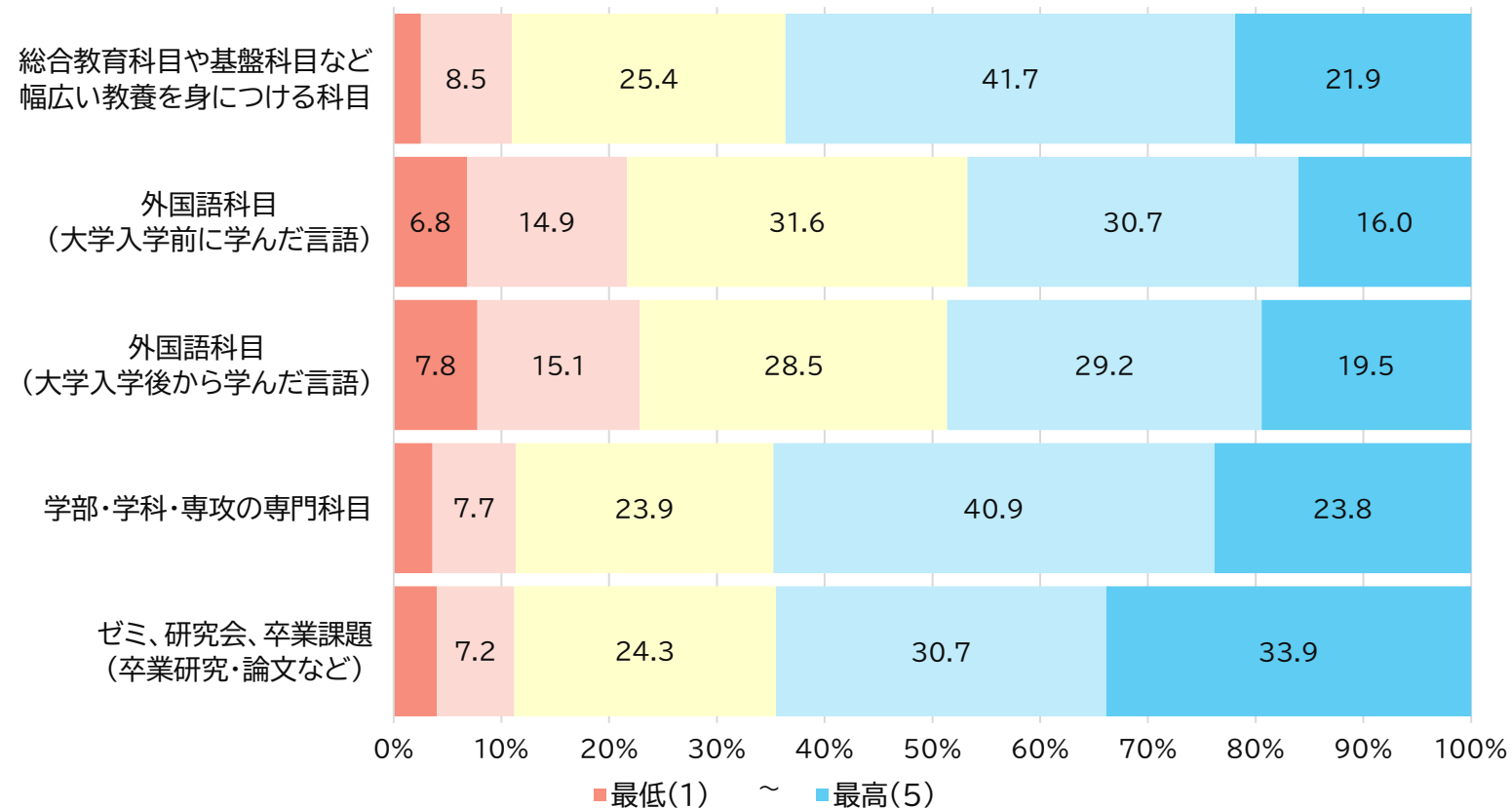
Q 自らの学部・学科・専攻の専門科目を履修するなかで、より経験を積みたかったと感じるものを選択してください



・いずれも論理的・学術的な文章を書くスキルやデータの理解・活用スキルの必要性を感じている

## 6 満足度(授業)

Q これまでの授業の満足度についてそれぞれ5点満点で点数づけをしてください



※未履修または利用していない項目はカウントから除いて処理

・在学生の6割程度が教養科目や専門科目、ゼミ等に満足度している